



詞通路中卷

句の兼用の事

本居春庭著

明治年月日購求

あよぬの名も句も何もまことにされむるをうかがひたるに
きつてうりゆく事あり又その用で手写りをつくり
ふり又は用ひてあるもあくゞ多くちて一枚たり又は
手書きを経てつるありうる、極端のこそ歌の手書き
たゞす多し、いわば其の多さをこれより又序ふりけ
けぬ名をもさうのうちとすまくおじかくうそのさ
あくよびかくへんはちよまたたまうたまうて文より序
文古文よはるえられとぞれとうくらまくよまくひま年を

のちへお文子へとまわるたまはうまくよんとゆきひを
いれしへとまわるたまはうまくひまのともうとて
うそおとまわるたまはうまくひまのともうとて
すけもがまくスンとまわるたまはうまくひまのともうとて
用ひあやまつむれこれと今うのとまわるたまは
うつゆまわるたまはうまくひまのともうとて

おとまわるたまはうまくひまのともうとて
おとまわるたまはうまくひまのともうとて

梓うらわせゆきとまわるたまはうまくひまのともうとて
うとほとまわるたまはうまくひまのともうとて
毛圓あけハ春の花とまわるたまはうまくひまのともうとて
圓とまわるとまわるたまはうまくひまのともうとて
けれもかきととやねりとまわるたまはうまくひまのともうとて
ぬめがとと起るまわるたまはうまくひまのともうとて
かがくとまわるたまはうまくひまのともうとて
葉とまわるとまわるたまはうまくひまのともうとて
うねをまわるたまはうまくひまのともうとて
雨ふれもまわるたまはうまくひまのともうとて

あすれをまきとくとおなれはまくとくあつて用ひ

タフミヨリれりとくとく廉のとくのうちもや林くとくとく

タ日せれとくとくとくとくとくとくとくとくとく

居くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

侍筆と筆とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

アソシムは多くとくとくとくとくとくとくとくとく

な木のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

牛のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うひくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あくまうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

桙弓はよふくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

の組とて射とくとくとく

タフミルもくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

それもくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うひくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うひくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

それもくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

組の組とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あすれのかくふあすれますれむのとくとくとくとくとく

先をむと奥三つ月して松向まづや。秋のまむの草
とソシテ多きのよせとまづらうり

梅のそれちすふなまく春あせうてつまくまくひまかくも
されも疊まづらぬもと声を振つまふうてものうけたふ
くもうつてものちすふとゆくせたまかれをあまく

まくまく

冬くもなうひくれまくみえのあくハ昔くまきゆうそくく
ふきむにひ梅向のまくまでねと津まくつまのうけま
くくかくまく

タモハももかくら多めのあくあくやまくまくまく

されももくはゆのあくと起まくうて松向のまくまくも
ゆれゆてかくまくまくとまくまく
かくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
是も夜とくとあまれまくまくてゆけハリまくまく
すて夜のやくと起まくまくてゆけも松向のまくまくてまく
んのゆとまくまくまくまく
きくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
よくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
たくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

あくまでひけくちあまかへ、じよろよろとされどみのうちは
よきうらはさまとじよろよろとて、もとまのうらよろよろとも
ひよそて序ふつむ

ゆうのうまなよそも人をいはせむとな
しもよぐも序までやらぬの内とて挙とまく

ちぢらやよゆなればさる、うきあけをそぞろとよんとすれをく
こはさるふのえきてそよくそつまそとよめのむとそぞとい
もじくみだすとせよとせよやぢやとソヨモヨ
アシモヒトのぬれと、信よいやくまやうであひ

ハとおもひれなまればいと喜としして人をよしれ
くまとあそびうてまわり後め物などよくらむ
かくアラモトハ うきよもうなぐらむ
右きはとくせあやさうしとつるまくらう
掌あくまれやくちのあくやまれよハ人のほきなこく
左手と人の高くまくまくまくまくまく
ゆゑ序がとよ歌のとよあつて
ゆせこゝるく めふくめよみきれ そ色あくゆ
あとくとくとくとくとくとく

これも神をさと布団かとソシテテアリ後云神モニシテ
名ナシモハ傳ナリ

ひづりてねとやくは秋の田れいもものよまく
あまむね縞葉のよもと俗使ふまちやむぢやとりまく
うそちくらうふ一匁あまむねまくと
アマムネマク

もくみ川のまへは下を綱みのじよよひあへこのつまほく御
こよれらも序とて綱みのじよよひとまほ綱と云ふのと
よそらひよそら
ありのや人のひよそかあれとよすうちやよそな
は

もむゆと年ねてはと多きとすきをすすり用ひて
かくわのアキラカニシテシテシテシテシテシテシテ
こハよのいきのとよえのまやうて御とすゑりみそと
不対名をとしよもとおもとおもとおもとおもと
ナレハあまくとくわてど

飽うふれのうとうね

喜のやのうれいとねと君うめとせ数をもつて

續ふ橘のうろきわ

人えくすくじきうかれぬとせう

跡よほをうねと

おとくうじとみくわをハトセアリヤ

えのやせきふ小鳥とひまゆくあらか

互とりまきのこととうね

そめあくはくわ

とハシわくうもつれやくう

おとくうじとみくわをハトセアリヤ

えのやせきふ小鳥とひまゆくあらか

きと行とむのうとすけはきハモニ

てはきことじねとじねとじね

けくねのあふくふくちとるるるやまのうけとじね

とじねとじねとじねとじねとじね

別路を立き人のふとよきやんうてのふとよきやん

遣ふ破きとねとじね

喜いとよとよとあらり井戸のくちとよとよとよとよ

せのうふれのうとよとよとよとよとよとよとよ

あひるもうまく飛べるが如きもとくも
うさぎのかく小魚をうしりぬのうとくと並んで
いそせ山岩の下あうちもとむのあよハなづきてゆめ
ほくも小流もとつねりあ見らまほのきくもとく
字始めぬ草とくもとくのとゆひくもとくにそく
日をか冰急ゆくとくとくゆゑあひまくまく
みゆきとくあらむすみやれと人をあくよをうくとく
泡よ吹けとくとくとく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

ほちきなれよしとれて人のもとハなやめそ
トヨホのこゑとねてそ
くもものあふるむらじひとみのくちめな
憂くホチヨシとねてそ
モルマリ一車と
トヤ済ムリモテサクモ高のいのちを
憂ソソ角牛と
なき人のれ見とせよあや一まがきと
みてとよ路とく年とねり
あれども、ましもくちめときわぢ

ちへてそももやまくらむま柳の奈をうつてそみくう利け
是ハミホヨキとトシムヒトシヒテシテシテシテシテシテ
の匂ひにそそぎのとよあつ

チリスモスモソクアツマシテの今よなやあくわ
ニハジキルヒシテシテシテシテシテシテシテシテ
你今よなよなよなよなよなよなよなよなよなよな
ねよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

シシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシ
シシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシ
シシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシシ

春の田と人よきをそぞれ、さきもよきもよきもよき
をそぞくはいとそぞくはいとそぞくはいとそぞ
ちせき

ミリのゆくまくまくまくまくまくまくまくまく
根と根と根と根と根と根と根と根と根と根
よめよめよめよめよめよめよめよめよめよめ
こハまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
又彦のゆくそけりそけりそけりそけりそけり
居とれいそれいそれいそれいそれいそれいそれ
おひ事とおひ事とおひ事とおひ事とおひ事とおひ

の御事やひのまことと之より

主とのことよまつれはるのねのしひぬ日す

「小國」九九九九九九

はまくとくよむとくよ
とくよ又常ひ小波とくよ
とくよ

君の名は。このままにして。一朝彼も。多くて。よし。よし。

二は、アーティストの絵画を
細引くのである。

秋の田れども挂たふらんのうけす
物を仕ねとしまふ用ひまで猪の頭とひものとひまくさ
とつよ薪とつねうしも猪のえん便すり秋の田れ
どはまくさ

さうの流もひそかと

田の実小札をひ
うねてくもゆ

田の寒ふれをね山田のそよ枝のゆれそよ草を
うねてゆきゆき
ゆくつゝゆきゆきやくもひくやくもひくと
かくおへきくとくもひくの序きりとくとくをあ
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あふまのかゑゑそとひもくちくわくわくわく
行ゑよ跡よとくとくとくとくとくとくとくとく

中華書局影印

人同士の争ひあつたる所以のことと云ひ被そとソナリスムの如く

天の川を流れ、月はうらやましくも
うらやましくもあわいとよせてもやくとも
流れをもぐぐときどき夜月あわいとよそひの時や

よの事とあわ川のねもく
いわゆるまよわすまくと
きもく今うつたむ

いをもよひて仕事とお仕事と

右より奉^シたまし行^シまよ^シゆく^シなまく^シもあよな^シ

く。と法き。悔ハム。く。く。く。とく。ら。く。く。
く。ゆ。れ。とく。そ。燻。も。悔。も。な。れ。と。く。ゆ。む。く。ゆ。と。ソ。前。
燻。の。ま。よ。れ。な。く。く。ゆ。と。ソ。前。を。悔。の。ま。よ。れ。を。な。く。そ。
た。く。し。よ。き。う。く。く。く。又。金。と。加。行。四。版。の。法。向。と。ほ。中。二。
版。の。法。向。と。金。か。も。あ。ま。お。く。あ。け。と。法。き。起。お。ま。
お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。
よ。く。と。も。も。あ。け。と。し。て。ハ。金。事。よ。れ。こ。な。ま。そ。起。よ。く。よ。な。
れ。お。く。お。く。れ。と。し。て。ハ。金。事。よ。れ。こ。な。ま。そ。起。よ。く。よ。な。
な。く。く。又。も。と。く。燻。も。燻。と。燻。は。燻。と。燻。は。燻。と。燻。は。
の。活。向。と。く。も。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。

とくに。いとほり。こころ。おもひ。あはれ。あはれ。あはれ。
とくに。いとほり。こころ。おもひ。あはれ。あはれ。あはれ。
とくに。いとほり。こころ。おもひ。あはれ。あはれ。あはれ。

後撰
夕香はすつもかくゆゑのからうやまとも軍ぐま
をハ加行四門の法詞とて あ。む。あき。あく。あけと法事と おぐ。
いふ方へあゆみをとことくゆゑのむとソひうけてされよる
とくまで起きてまく年じてなりとひうけハかく惜のなまきを
こくらむよ。トキヌ一
續後拾遺
アリトテハシミテゆゑのこうまも芥れもつまう耶

と今後更に小遣行屋の活用よつもつ。もしも
そぞうとも活く御とやまとんとうへ活きたまふかよ
なれども思ふまくまくうらうるの事いきくうやく
ゆまなれくまく考えきことなかりせひなやあ
ふなれても

まを活用と云ふ事あればやくたゞと今比ひとみ
ち小玉自画をも。且つて日数多くなる事年々
いきまわやまうなづこはよしのく隊。経とうねむらじむ
も日數多く。且つて日数多くなる事年々
いきまわやまうなづこはよしのく隊。経とうねむらじむ

新千歳
費代うそつまき
もあやめのこはの津まくら

拾遺
草中小ぢめ不もえて うねひすうかくちう
新キ裁
貴代うそつあき もおやとみのこはの波打リ うまく
くとひびくともくらひ うれはははははははははは
このよとくとく
きくの鳥くをうたふ事とづくまと ふ。 ふ。 ふ。
と四聲行中二段小活までとむぬも是事なまくや 狩是ホのことを保
えれうきあうとまくいふれと今とくわんわやをひととぞそれとく

経てより序ふつゝ
よま奉へばたゞ三代集のきともす後王を爲り
ともいと巧みなりとてきやしとせもりひきよも又はくまくも

なまくらをもつておまかせ

詞の延泊の事

ハミタの例

○加行四條の法句より佐行四條の法句より

あがくつうじも

あらまゆな。」
大持喜な。き。す。

こねとひく。せ。ハ

は戸ひく。け。す。

ながな。よ。あ。ハ

せがな。う。や。あ。ハ

なげ。を。つ。ふ。ハ

なげ。く。つ。ま。す。

ふとま。び。天。下。ハ

ふとく。天。下。す。

うとま。と。あ。で。ハ

うとく。と。ま。に。ば。な。り

あく。小。く。ハ

あく。小。く。ち。ち。す。

あと。か。く。ら。む。ハ

あと。か。く。ら。む。す。

ゆ。こ。と。ま。す。ハ

ゆ。こ。と。ま。す。す。

○多行四版の法句より修行四版の法句より

○波行四版の法句より修行四版の法句より

あ。く。と。ま。す。ハ

あ。く。と。ま。す。す。

う。ま。く。い。ま。く。ハ

う。ま。く。い。ま。く。す。

な。ま。く。い。ま。く。ハ

な。ま。く。い。ま。く。す。

き。く。た。ま。ひ。の。ま。く。ハ

き。く。た。ま。ひ。の。ま。く。す。

み。こ。と。ま。く。い。ま。く。ハ

み。こ。と。ま。く。い。ま。く。す。

く。く。と。ま。く。い。ま。く。ハ

く。く。と。ま。く。い。ま。く。す。

麻。行。四。版。の。法。句。より

修。行。四。版。の。法。句。より

あ。ま。ま。く。い。ま。く。ハ

あ。ま。ま。く。い。ま。く。す。

あくま。なハ
あくも。あなま

なまこ

ちよかよハ

すまうむ。子たゞり。
ちく。一。小。ちく。

維仁西隱の印

天てうたううちう

卷之三

子
之
不
居
也

ちくにまかたと、まくら。ハ

卷之三

卷之三

卷之三

蒙古文

卷之三

麻生一門の行方不明者を尋ね
佐行四郎と云ふ者の事

卷之三

又年年與其一

モロコシハ
モロコシのこぼち

又一役の後もひまつぶしの外のむづきの事

行中二段の活版の仿行四段の活版よれをアレ

少々飢てこそ。
少々飢てこそ。

アラニヤ
アラニヤ。

卷之三

中二候の後羽の如きたゞきとて是れもよろしく

いひ
な。せ。
ハ

たまむら

やまと一十九

まよひへきあを風とふ。
いとかの列はまふ

卷之三

— 1 —

卷之三

の左行複格の古風なアーティクレーションの四音が豊富なカタマリ

卷之三

卷之三

四の事とよ

ふそのうそてかの行うはなれとけ度拾の法向の牙四

まへども西側の法向の方の名とよんで、門へつけられ

右より一ノ行よのアツハおのづくらむ
アツハ多一スルクテ羅刹小汚タキナムシ
アツハ多一アレト多くハ活きたアツハカ
後の云ヒ御前モ

祝詞よ。えりと。ま。えりあは。えりあうて。多行四般の
法句の佐行ト二般の法句のアリ。ナリ。もくて。佐行ト
二般の法句よのアリ。ナリ。もたゞ又。また。ナリ。のアリ。
皆四般の法句をれ。えり。アリ。えり。アリ。ト。アリ。アリ。アリ。
き。ほ。ち。り。又。な。う。ア。セ。こ。そ。ト。ア。モ。タ。ナ。う。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。
な。キ。セ。な。う。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。

あ。り。う。ね。ハ
え。日。く。さ。か。う。
い。じ。ま。・。ね。ハ
う。た。ち。ト。・。ね。ハ
あ。め。と。な。・。ね。ハ
か。く。も。と。お。き。う
あ。め。と。と。き。う。
こ。の。よ。う。く。の。ま。よ。な。れ。く。ふ。む。く。そ。と。ふ。く。は
う。け。や。く。四。脚。の。活。用。の。オ。レ。ま。か。さ。く。く。ま。ら。小。れ。す。の。ね。ハ
く。わ。た。く。と。も。わ。ま。く。と。も。い。今。集。よ。う。あ。く。う。う。の。ね。ハ
あ。み。と。れ。你。そ。つ。ひ。う。ま。く。あ。わ。ま。く。と。せ。你。も。オ。ニ。あ
も。き。あ。ち。ひ。み。ア。ラ。モ。う。て

入事て御よろづ

う。まく。お。ゆ。
え。や。と。く。う。ゆ。ハ
は。ま。と。く。う。ゆ。ハ
ま。く。う。ゆ。ハ

まへま行のオ一のまよめ。往行は既て又ま佐行のオ一のま
まよめ。そニキモハゆた。但ナリ。あけのまよめ。
のまよめ。をのまよめ。あくまよめ。とゆた。まよめ。
まよめ。をのまよめ。とゆた。まよめ。もまよめ。
まよめ。をのまよめ。とゆた。まよめ。此か。とこれよ
な

○加行四帖の活用の波行四帖の活用よのくくくくく

卷之二

卷之三

七
八

川はよき

卷之三

蒙古文。右

نَجْمَةٌ

なまくら

行四役の汚穎の波行

の活句小のく

うるわしきあそび

うさわあ、まくら

卷之八

。蒙古語

卷之三

卷之三

خ

かくし
ちう

けと押さねる。

ウミと狸アシカでや。

میں اپنے بھائی کو
لے کر ملکہ کے پاس
چل دیا۔

蒙古文

蒙古人之西行記

する人をあざけたり

卷之八

卷之三

行四之の如き國の事例、かくして

卷之三

あくびをまく人へあくびをまく人へもく

あくびもとまくらへき

う。ひ。ハ
モ。シ。ム。ム。ム。ム。
ア。ル。ム。ム。ム。ム。
モ。ジ。ム。ム。ム。ム。
モ。ミ。ム。ム。ム。ム。

○麻行四伎の法句の波行四伎の法句の波行四伎の法句

ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。

モ。ウ。ム。ム。ム。ム。
モ。ウ。ム。ム。ム。ム。
モ。ウ。ム。ム。ム。ム。

○四羅行四伎の法句の波行四伎の法句の波行四伎の法句

ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。
ア。ム。ム。ム。ム。ム。ム。

みるまへ。ひつゝ

みるまへ。つちり

みるまへ。つまみ、

みるまへ。みのちり

○多行中ニ辰の法句の波行四辰の法句よのくくくくく

かくく。ひきく

かくく。ひきく

かくく。れのくとてかよるあく

○波行トニ辰の法句の法句よのくくくく

かくしとく。やくへ

かくしとく。やくへ

かきむらよゑあく

かきむらよゑあく

かきむらよゑあく又加行佐行麻行羅行の四辰のかくくらき句

のよ。と。かく。ひきと。ひく。か。と。かく。よ。と。よ。

かく波行トニ辰の法句よのくくくくとくくくうたくくくうさくうよ

れと席よのくくう是あをせニ叶の身写のまくうだらかうう

○羅行トニ辰の法句の波行トニ辰の法句よのくくくく

なくう。かく

なくう。かく

なくう。かく

なくう。かく

なくう。かく

なくう。かく

えくう。じもあくとがく。そけ句よくと写修よく

きたれは行の辰の法句の波行四辰の法句よのくくくく又ふ

そのをく。よるもとあくとをく。そけ句よくと写修よくと

と羅行トニ辰の法句よのくくくと下ニ辰の法句の波行辰

の法句よのくくうはなきれとおのたをくよくとくとく

四役の法句めうきて波行よゆくとあくとまゆを
は行の下二役の法句よかまくとてちくハ四役の法句よゆくと
くもれられあく方せよなき。水ほの又なき。さきのう
なもあくと四役の法句めうかくとまゆを

又波行トニ候の法句よ なまくらふ。 ようかとソよ句あらひ
佐行四候の法句の なまくにトニ候の法句の ようとソよ句の
のよくうたるなまく そめをもと体勢あゆよ あさのねのみを
一れ小なまくしてハチ夜(しゆく)やあくとまきのあくしきあく
のよくうよ秋の夜れをもと一れとなせうともねのてよきとちや
なまくらふもとてよくうよ又なまくらふ なまくらふ

○加行四條の法句の羅行四條の法句より
も。こ。そ。く。
も。そ。く。も。

○佐行四候の活用の異同 佐行四候の活用よか

たゞあんなやう
みゆきながてハ
水うちてある

蒙古文

○麻行四條の法句の註行四條の法句より

今そちら。ハ

今そちむろ。

凡
卷之八

ぬなまく

こ
か
な
り
ハ

かみる

七
卷之三

血
子
孫
考
古

卷之三

卷之三

卷之二

萬
支
之
書
卷
之
一

卷之三

卷之三

卷之三

。のうし。とゆ

一つのミナリ

卷之三

○波行下二版の活句の罫行四版の活句より

卷之三

蒙古文

。 。 。 。 。

スル。シテ
スル。

はか見あへてこひまへひなへる。ふちうみち
ほのよも。くもよも。つまも。ゆきよも。なとあはれ
行下二段の活用のよも。りふ用のよも

まよひは
と。と。
た。い。
た。く。
まよひは

卷之三

•○

3. . .

たゞも羅行の法句の波行よのうまく修行よおこしをす
とあそ波行の法句の羅行よのうり又波行よおこしをす
あれを羅行の法句の波行よおこしを波行かのうすす
えいやまく。うまく。うまく。うまく。うまく。うまく。
のうまく。うまく。ひとむすぶ又いまく。うまく。うまく。
されくひまく。うまく。うまく。うまく。うまく。うまく。
あきえきまく。あきえきまく。あきえきまく。あきえきまく。
ときまく。じとくまく。じとくまく。

見てよあけの御行と波行をみて四種よ法

○加行の法洞とそハ

卷之三

卷之三

古今類聚

○佐行の法詞

○波行の法詞

サ
ミ
カ
・
・
・
・

○麻行の河河之子、

ゆまもとさか

又四行の法句有るをあつてれむるにてふをとれま行のオ一れ事
なまらうもくとのくもくあくもく

○奈行のぬのてととのけくもく

あひるそなくよ

あひるそかふくよ

うらうねくもく

ありのふくめく

そむれなくふ

そむれぬく

もなくもくふ

もなくめふ

もなくもく

もなめく

○麻行のむのてととのけくもく

うらうねくもく

うらうねくもく

うらうねくもく

うらうねくもく

うらうねくもく

うらうねくもく

たくよくとくき
なうきよくまくハ
ふくよくハのちハ
せくよくもハ
うひよくもハ
ひよくけよ
ひよくけよ

○羅行のるれてととのけくもく

やくよくふ
やくよくもハ
さくよくもく
さくよくもく

さくよくもく

スル。シテナハ

スル。シテナハ

シテセラハ

又くもきをもあまきとおのくのけくとのくわう

シテセラハ

又梓らよりれぬ邊の毛筆。小字とあるを毛筆。とよ
くもあれどよす舉る四段の法匂の筆。たゞすれど
けりよハ併えあ

又ね毛筆くちくけ。あく小書記よひーうめき。あ
く小字とあるを毛筆。筆記よひー祁流。あれ
そくへけ。じくへけ。のまくわあく

又たひくけ。のまく。やまくけ。をまくとくあまの
活のくとくとく。とくとくとくとくとくとくとくと
序よしよしよしよしよしよしよしよしよしよしよ
くらまく

ほきうの例

○加行の法匂とくのわうそ。とくこといとくーふを
こでく志きの法あく志きの法匂のくとくよあくとくの
のまく

まのくのくのく

人ふくうのくのくのくのく
あくすくのくのくのくのくのく
人のくのくのくのくのくのく
なまくのくのくのくのくのく

秋のゆくとくのくのく

む。う。う。や。う。う。け。む

な。ま。ま。名。取。て。ふ。く。う。う。

ち。あ。う。洞。の。い。と。な。う。う。

ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

立。

立。立。立。立。立。立。立。立。立。

老。せ。れ。秋。の。ひ。ま。ま。ま。ま。

な。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

は。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ひ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

れとかよあきつあひそ

又ヒトヒクモツリケルをなまくすもあひそ
ちきとハ居てまくすだれとあく一とほきて、うかく

すやうがれい序よんづ

又五音ふよくそよのまくじりひく。序一くとくをあひ

又アキ。こをとあむとようづめつまつまくすき。とくそ
ヨリ。ヒチカスツのまくじりとづくをさう。めぬれ
そくよく。うきそく

又くあ。じとよう。むとゆ。う。むう。スケ。じとく。くまく

くまく

いのちと。けい

いのちと。う。むすり

ふとめとけ。ひ

ことめとけ。う。じまう

ことめとけ。ひ

ことめとけ。う。むすり

あひ。け。ひ

あひ。け。う。むすり

アキ。や。ひ

アキ。や。う。むすり

是ホをちき。後事よ。まくじりと。まき。け。や。と。と

よ。と。あ。ま。と。ま。き。と。と。と。と。と。と。と。と。

ら。お。ち。き。と。ハ。居。す。れ。く。ま。え。あ。り。け。は。か。よ。あ。い。そ。れ。

又。それ。う。き。に。そ。れ。を。う。な。て。そ。と。よ。う。く。と。ア。る。

いとほほかよるあらへ
えうれどつづがつまうてけとくまわうたのうれのうもむくあ。
のつやうくわう

又。ま。え。の。ゆ。て。け。と。く。も。け。く。う。る。え。け。を。く。ふ。け。ち。を。
け。き。む。な。と。ゆ。よ。多。く。し。て。え。な。も。こ。な。く。
又。け。き。き。な。と。よ。き。け。な。と。あ。け。と。き。く。の。ゆ。く。く。く。
又。ひ。き。の。よ。う。ひ。け。つ。き。じ。と。あ。く。け。と。う。れ。の。つ。き。う。く。く。
ひ。ん。ち。く。
み。つ。ひ。の。け。れ。じ。と。あ。く。と。き。あ。れ。の。ゆ。て。え。れ。と。う。う。が。四。れ。ま。
よ。う。う。て。け。れ。と。う。う。が。四。れ。ま。
ま。事。よ。ま。り。て。は。ま。一。を。ま。紀。修。よ。參。渡。ま。と。ま。あ。ま。く。
ま。か。一。を。ま。と。ま。の。け。り。よ。あ。け。ま。と。あ。と。
ま。と。ま。と。ま。れ。を。あ。と。ま。と。ま。と。

又このあだり。いそがくゆもハキ。あうのぬうて。け。とくさき。
まくらぬけ。と夏うつ。キ。あうと夏うつ。き。け。せ。ま
のとあうた。き。あうたかて。ゆ。とくさき。け。そ
そ。と佐行。よ。

くわらわ。ゆ。とあうけ。そ。のぬうて。け。とくさき
○佐行の活。と。あ。のぬうて。ざ。とくさき。とくさき。
こをふのきの。と。小。あ。と。く。袖の。そ。く。く。く。
ま。ひ。袖。と。ち。び。ざ。と。ま。

せれう。ま。の。き。く。く。む
あ。ま。し。袖の。く。ち。や。の。け。も
く。く。く。く。け。と。ハ。と。く。く。
差。小。く。ま。な。く。じ。く。り。け。と
せ。ま。人の。き。く。く。む
く。く。く。く。む。の。く。く。む
と。ま。く。く。け。と。な。め。く。く。く。
さ。と。ざ。れ。と。と。袖。う。ち。ひ。く。あ。た。れ。と。と。や。ま。く。あ。と。く。
文。よ。と。い。く。

又。ぞ。あ。の。つ。ま。く。て。ざ。と。と。と。事。あ。う。き。よ。く。け。あ。く。

○多行の法。そちらあの方へて。とくに多く
とのさせ。もと。のけ。やうりたまう
又約をくふ。きて。まく。ハ約をく。
えき。かく。す。一。せ。あくせな
えき。かく。す。一。せ。あくせな
えき。かく。す。一。せ。あくせな

名のくらやみとくわ。

又うちあびと。び
うちあびと。び
うちあびと。び
うちあびと。び

シモトモアラハス。ヤカニ
ミモヤムアラハス。ト
シテセムルタモヒ。シテ
ハスカニシタモ。アヌ

後のゆきそぞ。れく

さて。ああ。ひと。ひ。沸。あ。と。も。ま。

な。と。こ。と。も。あ。

又。あ。の。た。と。ゆ。く。し。と。ア。ス。ア。マ。ラ。ボ。レ。モ。漢。文。訓。ス。君。君。う。

ル。臣。臣。レ。レ。テ。然。レ。ニ。如。レ。テ。シ。ラ。シ。カ。レ。ア。

左。事。紀。傳。小。告。言。汝。者。任。我。宮。之。首。レ。シ。モ。レ。ト。この。官。の。お。じ。

レ。れ。と。の。ゆ。き。と。も。れ。レ。

又。と。い。の。ゆ。き。て。ら。と。こ。る。あ。

え。と。か。と。そ。く。ら。ふ。ご。と。

あ。ね。ち。と。ふ。ま。り。れ。れ。

よ。ま。う。う。ち。の。先。四。れ。き。の。で。よ。う。う。う。う。う。う。う。

あ。あ。ふ。よ。似。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ひ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

ゆ。あ。で。ふ。ま。の。と。と。の。と。と。と。と。

か。か。か。か。か。か。か。か。か。

み。の。と。と。と。と。と。と。と。と。

を。く。む。く。く。く。く。く。く。く。く。

さ。そ。右。の。か。か。と。ソ。ソ。ソ。ソ。ソ。ソ。ソ。ソ。

あ。あ。い。い。い。い。い。い。い。い。い。

も。あ。あ。あ。

○奈行。そもそも。あのう。まきて。なまく。まよ、とあるや
も。もよの。ふと。小さあ。とくことのそくくも。

おまへあつとか、お

之處のまみぢ

其後又復有
七言詩云

おもとせかなう。おもとせかなう。

卷之三

あ、な、ねとひもあく。

卷之三

玉のやまくめ
のやまくめ
あくめのわくめ
わくめてあくめ
やくめ。しやもめつねす

又新嘗とよひた。とよひたよひのあくのゆゑなまち紀のう。小
ひうちよそびよそとあくを照る。あくひもなまくし。あるよ。それ
のあくちよ又よそ。よそとよすこの。この。うそをうそ江底
や小鎧葉とよく魂とあくと和名抄小加久能河和古を供主とあくこ
れらもの。あのあとつまらぬ。

ちあくはく。なまとせ四のもよひてけ。せき。て。もく。
アモ一のまか。ナ四のもよひ。ほふ。

花のさくらあむすり
もはよけらむ
ひよこあけらむ
ちよこあけらむ
ちよこあけらむ

もとからせむ。
もとから。あむちり
えみ。あらう

○佐行毛毛

まくせら・ハ

まくせら・れせら・ハ

まく・めく・う

まく・めく・れ

まくせら・とく

まくとく・まく

まくとく・あく

まくとく・ハ

まくとく・れ

まくとく・れど

まくとく・れど

○波行^トとく

人のまく・とく

まく・とく

まく・とく

まく・とく

まく・とく

○麻行^トとく

まく・めく・う

まく・めく・う

まく・めく・う

まく・めく・う

まく・めく・う

まく・めく・う

まく・めく・う

○四羅行^トとく

あく・あく・う

あく・あく・う

あく・あく・う

アレ。ハ。

ア。ア。モ。ト。

アレ。ビ。ハ。

ア。ア。ド。モ。

右を四行の法句とよきとれど阿奈也和の四行スハナ
をよ舉へ延歟の詞とせば多々こと小品ノもうもかま
なく、トモクトモトモトモトモトモトモトモトモトモ

